

# 自然環境の厳しい山村集落における世代間伝承に関する研究 ～岐阜県白川村荻町の“守らんなんもん”～

浅田 麻記子

キーワード：山村集落、世代間、伝承、地域活動、祭り、イエ、集落存続

## 1. 研究の背景と目的

日本の山村集落では、若者の都会への流出や高齢化により集落の存続すら危ぶまれている地域が少なくない。しかし、厳しい条件の中でも存続している集落も存在する。存続している集落とはどのようなものなのだろうか。その集落では何が行われているのだろうか。様々な環境変化の中で存続している集落の現状をみていくことで学ぶことは多いと考えられる。白川村は特に冬には4カ月に及ぶ積雪期間があり、自然環境が厳しいにも関わらず、現在でも集落として存続している。このような白川村での地域活動に着目し、活動やそれに伴う意識をどのように次世代に受け継いでいるのか、世代間伝承の仕組みや知恵を明らかにすることを目的とする。

## 2. 調査概要

本研究では、2009年1月25日～26日、2月14日～18日、3月3日～5日にかけて3回の予備調査を行ない、白川村を大まかに把握した。また、白川村の中でも伝統的建造物群保存地区および世界遺産に指定されている荻町地区を対象とし、2009年6月13日～16日、10月9日～22日、11月6日～20日、2010年1月21日～27日にかけて4回の本調査を行った。調査方法は白川村で行なわれる地域活動の中で、日常生活・祭り（非日常生活）・イエ内のそれぞれの活動において、参与観察と関係者や地域住民への聞き取り調査を主とした。

## 3. 白川村における世代間伝承

白川村では、世代間伝承の機会となっている地域活動の多さが特徴として挙げられる。数多くの活動の中で、地域住民間に様々な人間関係が構築され、村全体で次世代を育てる雰囲気を作っている。また、老若男女全ての住民に役割があり、自分が白川村の一員であるという自覚の形成に役立っている。地域活動の形を見ていくと、重層的な構造になっていることがわかった。1つの活動において、柔軟性のあるものと強制力のあるものを組み合わせることで、活動が維持されている。また、活動の伝承は口伝・自然習得・指導・書伝の4つの方法とそれらの組み合わせによって世代間で行われている。そして、これらの地域活動を支えている各家の存在も重要であった。家、そして、村を継いでいく存在として、長男であることを幼い頃から自覚させ、村に戻ってくると、早い段階で世代交代を行なう。それにより家の代表として地域の活動に参加し、地域の中で育てられていく。このように地域活動を通して、その活動内容を習得し、それに伴って意識が形成されていた。また、意識が形成されることで活動が維持されているという、活動と意識の相互関係が見られた。

## 4. “守らんなんもん”

白川村の人々にとっての“守らんなんもん”とは、自分たちの当たり前前の生活とそれに関わる周りの人々との人間関係であった。そのために、多様な地域活動において世代間伝承を行うことで次世代育成を行ない、世代を繋ぐ人間関係や家や村を守るという意識を形成している。一見華やかな世界遺産・白川郷の裏では、白川村の人々が大変な努力をしている姿とその中で構築された村を存続させるための知恵や工夫を見ることが出来た。

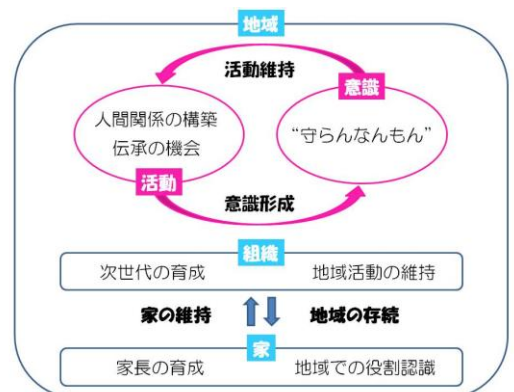


図-1 白川村における世代間伝承のかたち